

会 議 録

会 議 名	令和元年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会		
事 務 局	市民部 コミュニティ文化課（はけの森美術館）		
開 催 日 時	令和元年8月6日（火）18時30分～19時30分		
開 催 場 所	市立はけの森美術館 多目的講義室		
出 席 委 員	鉄矢悦朗会長 山村仁志委員 上原佐世子委員 川崎京子委員 浜田真二委員 鈴木遵矢委員		
欠 席 委 員	なし		
事 務 局 員	薩摩学芸顧問 コミュニティ文化課文化推進係 吉川、岡本 同 はけの森美術館学芸員 中村、桑野		
傍 聴 の 可 否	可		
傍聴不可・一部不可 の場合は、その理由		傍聴者数	0人
会 議 次 第	1 展覧会「すなわち喫茶すー中村研一の日常と「茶」の観覧 2 事業実施報告等 3 令和元年度の事業予定と予算について 4 意見交換等 5 その他		
会 議 結 果	別紙のとおり		
会 議 要 旨	別紙のとおり		
提 出 資 料	1 開催した展覧会・ワークショップ等及び今後の予定 2 令和元年度年間スケジュール		

令和元年度 第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会

令和元年8月6日(火)

【鉄矢会長】 皆さん、こんばんは。本日はご多忙の中、お集まりいただきまことにありがとうございます。

ただいまより令和元年度第2回小金井市立はけの森美術館運営協議会を開会します。

配付資料の確認からでいいですか。

まず、展覧会「模写－西洋絵画の輝き」の観覧については、一応見ていただいたということで、次の議題という格好ですけれども、その前に、済みません、配付資料の確認を事務局のほうでお願いします。

【事務局】 それでは、次第が一番上にあるかと思います。その次に、資料1、開催した展覧会、ワークショップ等という資料が3枚つづりになっております。その次、資料2が、このスケジュールで、資料3が「模写ってあそぼう！ 西洋編」のアンケート内容。資料4がクリップで綴じてあります。今までの運営協議会の提言を3種類まとめてあるものが1つと、あと、最後に、「心と風景が交わる場所 大岡昇平が描いた『はけ』」というのがあるんですが、これは、前回お配りした「美術の森緑地のこれから」の別冊で、後からになってしまったんですが、こちらで講演会をしたものを取りまとめたものですので、後でお読みになっていただければと思います。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。資料4までともう1つということですね。ありがとうございます。

では、次第の2に入ります。事業実施報告等、よろしくをお願いします。

【中村学芸員】 ではまず、先に開催した展覧会、ワークショップ等です。こちらはもう大分前になりますけれども、5月12日に終了した所蔵作品展「すなわち喫茶すー中村研一の日常と『茶』」のほうから報告させていただきます。

展覧会観覧等は前回行いましたので、最終的な人数報告のみさせていただきます。

最終的に5月12日までの入館者数としまして、2,190人の入館者がございました。5月12日の展示最終日が無料開館日だったんですけれども、この5月12日の無料開館

日の入館者というのが266人です。

所蔵作品展としましては、わりと久しぶりに2,000人台に乗りました。特に266人、無料観覧日に来てくださったというところが、最終的に2,000人に乗るというところになった大きな要因になったと思います。このときにあわせて鑑賞教室も2校の小学校で行われておりまして、5月7日に小金井市立南小学校、5月9日に小金井市立第四小学校がそれぞれ来校しています。

続きまして、開催中の展覧会のほうにつきましては、桑野のほうから報告させていただきます。

**【桑野学芸員】** 現在、開催している展覧会ですけれども、「模写—西洋絵画の輝き」ということで、9月8日まで開催を予定しております。

つい先週、先々週、オープンしたばかりという展示になりますけれども、この暑い中なんですけれども、比較的例年どおりの出足ということになっております。

ちょっと特殊なというか、見ていただいてわかるかと思うんですけれども、模写といったところ、製作過程ですとか、そういった技法のところに焦点を当てた展示となっております、ごらんいただいた方は特に大変おもしろかった、興味深く見せていただきましたという声をいただくことが多い展示かというふうに思っております。

関連企画としましては、今回、特別協力ということで大川美術館に多大なご協力をいただいております。

また、関連企画としましては、ギャラリートークを薩摩先生に3回お願いしております、7月28日日曜日と8月3日土曜日の2回、既に終了しております。

今、投影しておりますのは、こちらが7月28日の回です。こちらのほうは参加者が7名になっております。初日、オープンしまして次の日でしたので、まだまだ告知期間が短い中であつたんですけれども、これを目的に参加していただいたお客様というのも非常に多くいました。

**【中村学芸員】** こちらの映像がが8月3日です。

**【桑野学芸員】** 8月3日は午前中、11時から始まったんですけれども、比較的参加者が多く、18名の方が参加しました。

**【中村学芸員】** こんな感じで大分、18名の方がいらしたので、展示室の中で結構人がいっぱいになるような中でギャラリートークが行われ、非常に活気がありました。

**【桑野学芸員】** 非常に熱心な方が多くて、先生もたくさん質問を受けていたという形

です。

続きまして、8月3日の午後、ちょっと散漫になりますけれども、「模写ってあそぼう！西洋編」という子供向けのイベントを開催しました。こちらです。

まず、作品を実際に展示室で鑑賞してから、ここの多目的講義室に移動して、実際に模写というのを体験してもらうというイベントになっております。

【中村学芸員】      こちらがちょうどその模写を体験しているところの写真になります。

【桑野学芸員】      まず、子供向けですので、解説のほうは細かなものというよりも、まず模写というのはどういうことだろうかというところとか、あと、特に今回、テンペラ画というのが非常に特徴的です。テンペラの道具というか、テンペラで使われているものは何でしょうという形で、卵を使っていますというようなことで、簡単なといたらあれですけども、模写の特徴と、あと、今回のポイントというのを子供でもわかるような形で説明したいというところなんです。

それで、実際にこちらに移って、こごうちぶんこ、とりのへやの皆さんにご協力いただいておりますので、このような形でわいわいと活気あるイベントになったかと思えます。

いろいろな絵を子供たちが見て、実際に自分で書き写したというような作業をしています。

今後、予定としましては、8月24日土曜日と8月25日日曜日に1時半から3時半を予定しておりますけれども、東京藝術大学の名誉教授をされております木島先生にテンペラのレクチャーとワークショップをお願いしているところです。

実際にテンペラ技法ですとか、つくる上での解説ですとか、そういったものをしていただいて、実際に参加者にも少し体験していただくというようなことを予定しております。

最後ですけども、4、「今年もやります！ 雨の日夕立プレゼント」ということで、雨の日にも来館していただきましたら、先着5名の方にオリジナルグッズをプレゼントするという企画になっています。これは例年行っている企画になっているんですけども、残念ながら、今のところ、雨の日がないので、実施できておりませんが、今後、もし雨の日が重なるようであれば、このプレゼント企画をしたいと思っております。

【中村学芸員】      では続いて、今後開催予定の展覧会、ワークショップ決定事業につきまして報告させていただきます。

今後の予定といいましても、今、開催中の「西洋絵画の輝き」のほうが9月8日までということで、まだまだ会期が長いんです。その後、秋の展示としまして何を予定している

かを簡単に報告させていただきます。

秋のほうは10月19日から12月15日までで、今、仮称ですけれども、「伊東深水、二つの光景」と題しまして、伊東深水のスケッチ作品を展示する企画を予定しております。

2017年に伊東深水の風景スケッチを展示したのですが、それからの発展系というような位置づけになっております。長野の酒造ギャラリー玉村本店というギャラリーに2017年に借用した市川市の南方風俗スケッチと非常に近い位置づけのスケッチがあるということがわかりましたので、こちらを借用して、2017年の内容を補足する展示をしたいと考えていたんです。それに加えて、こちらの酒造ギャラリー玉村本店には、長野の小諸のあたりを深水が1945年8月から毎日スケッチしたというような、そういうスケッチがあるということがわかりました。そちらを確認しましたところ、終戦の日である8月15日を挟んで非常に詳細に長野の小諸の地域をスケッチしていて、非常に魅力のある作品だということがわかりました。

ですから2017年の内容を補足するだけではなくて、発展の部分として小諸のスケッチもあわせて展示したい。「2つの光景」と題しまして、それぞれのスケッチを展示したいというふうに考えております。

関連企画といたしましては、ギャラリートークですとかワークショップを予定しているんですけれども、現在、調整しているところです。こちらに関しましては、次回の運営協議会の際にご報告できるかと思えます。

教育普及事業につきましては、鑑賞教室として今後、予定されているものを記載しております。

見ていただきますと、お気づきになる方もいらっしゃるかと思いますが、市内小学校のうち、第三小学校が今年入っておりません。これは、日程の調整がつかなかったということで、今回、鑑賞教室という形では今年度は開催しないことになったんですけれども、そのかわりに人数のチケットを学校のほうにお送りしました。できれば児童の皆さんが見に来てくれるといいなというような形でフォローする予定でおります。

鑑賞教室にあわせて事前授業の希望については4校希望が出ているところなんですけれども、こちらも会期が近くなってきたら、日程を調整して実施する日程などを細かく決めていくという形を予定しております。

職場体験学習に関しましては、現在のところ、小金井市立東中学校が11月6日から8日にかけての期間ということで希望が来ております。これに関しては実施予定です。まだ

学校のほうでも希望を募っているというところのようですので、参加する生徒の方が決まったら、また改めてご報告させていただく形になるかと思います。

これらのスケジュールに関しましては、資料2にもあわせて記載がございますので、こちらのほうもあわせてごらんください。

今後の開催予定、報告に関しましては以上となります。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。

何か質問、ご意見等ありましたらお願いします。

【山村委員】 今、おっしゃったように、この特別協力に大川美術館が入っているんですが、これはどういう協力をしたんですか。

【桑野学芸員】 まず、私が前任のスズキからこの企画を引き継いだんですけれども、昨年の夏に大川美術館でも非常に近い、同様な企画というものがされておりまして、パネルですとか、そういったところでご協力いただいたりという形になります。

【山村委員】 では、パネルが大川美術館でつくったものを借りているのでしょうか。

【桑野学芸員】 そうですね、今回はお借りしたような形になっています。また、大川美術館が今回、出品してくださった作家の先生の作品を寄託を受けているということから、ご協力いただいているというような形です。

【山村委員】 わかりました。

【鉄矢会長】 そのほかご質問、ご意見ありますか。

【桑野学芸員】 すみません。ただ、大川美術館とは丸々同じというわけではなくて、展示構成ですとか、パネルの配置ですとか、そういったものはかなり変わったものになっています。

【鉄矢会長】 補足よろしいでしょうか。

企画をした鈴木がほかの美術館に移りましたので。大川美術館で作家別の展示だったんですけれども、こういう模写の展覧会をやりまして、今、あその館長の田中さんが長いこと東文研におられた方なので、こういうところに興味を持たれてやりましたところ、また評判であり、作家の方々というんでしょうか、ほとんど修復家の方々ですけれども、修復家の方々というのは模写というのは人に見せようと思って描いているというよりは技法の修練、習得のための描いているもので、展示してとかということはあまり考えていなかったんですが、展示してみると、思ったより好評であったということで、東京でもできないかというふうな話になり、かつ、今、ここでもう販売していますけれども、その大川美術

館のカタログにここのスズキが文章を書いていたというようなことがあります。

それから、そのカタログがわりあいに残ったとかいろいろなことがあって、修復家の方々が、できれば東京で、ここでできないかというようなことで、大変おもしろいだろうというふうに我々も考えまして、一人一人のパネルをお借りする協力を大川美術館から受けながらここで開催した次第ということでございます。

【桑野学芸員】 すみません。あと、昨年度もこのはけの森美術館では模写をテーマにした展示をしております、その第2弾というか、昨年、東洋の絵画を学ぶ機会があって、それで、今回はその西洋という形で、市民の方にはそういった形で少し視野を広めていただく機会にするという意味もあったかと思えます。

【鉄矢会長】 美術館の中で模写をするというのは、随分前からやっていましたね。

【事務局】 そうですね。以前、確かに、例えば木曜模写とか、そういうタイトルをつけて、模写ができる日というのを設定していた、展示をやっていた試みをしていたのは数年前になるかと思うんですが、ございました。

【鉄矢会長】 ぜひその辺の流れもある、引き継いでおいてください。

【鉄矢会長】 ほかに何かご質問はありますでしょうか。

【川崎委員】 感想なんですけれども、今回もまた「模写ってあそぼう！」に子供と参加させていただいて、やはりすごく、桑野さんは初めてでしたけれども、子供向けにわかりやすいギャラリートークをしていただきました。ゆっくり見た後にちょっと子供たちがちょこちょこ遊んでしまって心配ではあったんですけども、隙を見てお母さん方にも桑野さんのほうが絵の説明をしてくださったりして、ちょっと得した気分という意見がありました。

模写の作品をつくる場所も木のパネルに絵の具で塗っていくというのは、ちょっと難しい子もいたんですけども、みんな満足そうに持って帰って、すごく貴重な経験ができてよかったと思うんですけども、やはり集まった子供が全部私が声をかけた友達だけだったんです。もっとほかにもいろいろな広がりがあるかと期待していったら、やはり集客方法をもうちょっと見直してお客さんの層を広げていったほうがいいんじゃないかというのをすごく感じました。

こごうちぶんこさんのほうからもメールで声はかけていただいているんですけども、やはりいつも決まった人が来る感じで、告知も、今回、夏休みに入ってしまったので、幼稚園の掲示板とかに張らなかったんですが、JRの駅の改札の中に大きいポスターが今、

張っているんですけども、2枚とも目立ってすごくいいと思うんですけども、1つ裏面にして、こういう関連企画が細かく書いてある面も駅構内に貼っておくと、待ち合わせとかでぼうっと見てもらえるかと思ったり。

ほんとうに細かいことなんですけれども、ちょっとずつ変えていかないと、多分何も変わらないかと今回ちょっと痛感しました。

以上です。

でも、展示はすごくすばらしかったので、もっといろいろな人来ていただけたらいいなと思います。

**【中村学芸員】**　　こごうちぶんこさんとのこういった形での子供向けのワークショップの試みというのが何回か続いてきています。こごうちぶんこさんにとってもワークショップをする上での積み重ねが出てきているというところがあるのは、非常にプラスになるところであるんですけども、ただその反面、様子がわからない初めて来る人にとしてみると、どうなんだろうという部分が出てきてしまっているというところは、物事の両側面としてあると思います。今後として考えていくべきところだと。

**【鉄矢会長】**　　新しい人がわんさか来て断られると、もう二度と見なくなるのか。どのぐらいいるんでしょうね。

**【川崎委員】**　　そんなに集まって身内感は全然出ていない。個々にやっているの。全然違う方が来ても、気にはならないかと思うんですけども。

**【鉄矢会長】**　　いや、自分の中で、毎回応募しているのに落ちていたら嫌だろうなと思いました。

**【川崎委員】**　　でも、定員になっていないから全然大丈夫だと思うんですけども。

**【中村学芸員】**　　このイベント自体は申し込み不要で、当日参加したい人は来てくださいという形にしているんです。

逆に、そういうふうにするので、気軽に参加してほしいということで申し込み不要にしているんです。ですが、当日になってみないと様子がわからないから、初めての人にとしてみると、ちょっと身構えるようなところもあるのかもしれない。

**【鉄矢会長】**　　美術館がやっていることなので、そんなに怖くないと思うので。

**【山村委員】**　　これはSNSは使っているんですね。

**【中村学芸員】**　　これがそうなんです。当館はそもそもSNSのアカウントというのを持っていないので。



【山村委員】 いや、市のホームページ。

【中村学芸員】 市の公式ホームページのほうには関連ワークショップとして情報が載っているんですけども、それを、例えば前日にこういうのをやりますというような形で、例えばツイッターとかで告知するということはしていないんです。

【鉄矢会長】 小金井市の子育ての登録してメールで配信するやつなかったっけ。

【中村学芸員】 あとは、インターネットミュージアムというミュージアム系のポータルサイトの経由で少し情報が流れたりですとか、あと、イベントバンクという、やはりポータルサイト系にイベント情報を流すサイトがありますので、そちらのほうには情報を登録しています。そういったところを経由して、例えば子育て支援サイトに情報が出ていたりもしているんですけども、ただ時間、例えば8月2日、前日になったら情報が流れるとか、そういう設定ができないので、投稿して承認されたら、そのまま配信されるという形で出ていくものです。

【鉄矢会長】 のびのびーのというのは、小金井市の子育て・子育て支援ネットワークで、市と市民活動団体が共同で運営しているというのがありますよね。ついつい忘れそうになるから。

【中村学芸員】 これは依頼すると、情報とか載せられる。

【事務局】 これは多分庁内の子育て支援課というところがそういう団体と一緒にというか、やっていたと思うので、どうすれば情報流せるかというのは確認してみます。ありがとうございます。

【鉄矢会長】 そのほかご意見。

では、次第の3です。運営協議会提言について。事務局から説明をお願いします。

【事務局】 運営協議会からの提言を、この協議会からの提言というのを、ここには、過去に出た提言の資料を3種類つけているんですけども、上から、一番新しいのが4年前に出た、平成27年に出た提言。その次が平成24年に出た提言で、最後のところが、ここの美術館ができるときにできた基本提言とされているものなんです。

この基本提言の後、美術館が開館しまして、運営協議会ができて、この委員さんたちが、同じ委員さんたちが、市民参加で続けて3期やったんですけども、おそらく終了するときに、やはり自分たちの意見をきちんと市のほうに伝えていきたいということから、運営協議会としての提言を初めて出したのがこの平成24年の提言になります。

それ以降、2期やっていただいたところで提言を今、出しているというので、5期

の委員さんの提言がこの平成27年の提言になりますので、この次の6期、7期の今の委員さんたちの提言を今年度出していただけたらというふうに思っております。

どういうつくりをしていけばいいのかというところを今日、もんでいただいて、この過去の提言なども参考にしながら、ご意見をまとめていけたらいいというふうに思います。

今までは、一応意見を出していただいて、それを事務局のほうで取りまとめて、会長、副会長のほうで見ていただいて、もう1回、皆様のほうにお出しするというような形をずっととっていたんですけれども、今回は一応この資料をお出しして、どういうつくりにするかというお話をしていただき、読んでいただいて、次の回の運営協議会のところからご意見の聴取をしていければよろしいかというふうに思っておりますが、いかがでしょうかということです。

それで、この提言を読んでいただきますと、かなり時代の流れが、社会情勢も変わってきていますし、この美術館としてすごく進歩したところと、やはり1点、全然前に進んでいないところというのが明確には見えてきているんですけれども、やはり言い続けていかなければならないものが提言ですので、できていないんじゃないかということも含めてご意見いただければというふうに思っております。

以上です。

**【鉄矢会長】** ありがとうございます。

皆さん、読んでいる途中だと。声を挙げてはいとってください。質問、意見等。

**【事務局】** 今回、ほんとうにこの資料を出したばかりですので、今日ではないですけれども、一応読んでいただいて、思ったところを次回以降、言っていただければと思っておりますけれども、そんな進め方でよろしいかどうかというところを確認させていただければと思います。

**【山村委員】** 前回の平成27年のときには、ここの教育普及事業というのができて、教育普及は各段に充実している。また、所蔵作品展も、企画展覧会ももちろんしてきたというところも評価すべき点で、一方で、課題としては、やはり学芸員が不足していることだったり、それがなかなか自主企画展とか、そういう学芸員が安定しないと、地道なそういう蓄積ができないということで課題として挙げたという経緯があって、それで、27年から4年たっているんですが、正直、あまりこの課題は変わっていないです。

**【鉄矢会長】** その課題は変わっていない。

**【山村委員】** というふうに率直に思うので、また、広報面でも、今もまさに質問した

とおりに、まだ SNS がいないのかという感じですので、正直、この 4 年間についてはこの課題について、各段に進歩したというふうにはなかなかいえないかという気はします。

【事務局】 提言を出していただいたときに、結構いろいろな大きな問題がありまして、24 年のときはここがまだできていなかった。この 2 階をどういうふうに使っていくのか。中村富子さんがお亡くなりになって、このお部屋は中村家の住んだままの状態空き家状態になっていて、その 2 階を有効的に使っていくにはどうしていったらいいんだということも含めて提言を出していただいたんです。

それがこういう状態で改修しまして、27 年のときは、今、山村先生おっしゃったとおりに、所蔵展だけやっていけばいいじゃないかという意見が結構、役所の上のほうからありまして、それだけじゃだめなんだということを、なぜこの 11 月に出してもらったかという、予算編成の前に意見を出していただいたので、いつもなら年度末に出すんですが、少し早目に意見を出してもらったというような経過もございます。

【山村委員】 あとは、茶室は課題に載っていたでしょう。ああ、ありますね。茶室の有効活用について。これは課題だったんですが。これは可能性があって、大きく進歩したんです。国の指定有形文化財になったというのは大きな進歩で、ここは特筆すべき成果だと思います。

【事務局】 ほんとうに 18 年に建てる前に薩摩先生中心にして出していただいた提言を読んでいくと、ほんとうにその時代の流れと、ここが課題とされているところが、変わらない課題とされているものがかかり見えてくるので、読んでいただけるとおもしろいかというのと、結構最初の提言のところは喫茶棟はなくていいんじゃないみたいなことが最後のところに書いてあって、でも、やはり喫茶棟は重要かなと思います。

【鉄矢会長】 重要ですよ。

【山村委員】 事務局のほうで今後、提言を出すに当たり、ここは課題でこの辺で意見が欲しいというようなポイントはあるんですか。

【事務局】 今、ちょっと課題なのは、諸々人事の問題は、学芸員が不足している部分についてはずっと課題であるんですけども、実は、前にも山村先生がおっしゃったんですけども、庭の手入れができていない。できていないというか、木がほんとうに茂ってしまって、せっかく研一の時代に育った植物が全て下のほうが今、密植して枯れてしまっている状態なんです。

庭も含めてこの一帯をどういうふうにしていくのかということがこれから課題かと思っ

ていまして、その美観の問題もそうなんですけれども、防災上、やはり去年は木が台風で倒れましたので、その辺のところは喫緊の課題かというふうには思います。

広報の問題は、今年度、ここの独立のホームページをつくる予算が、今、業者とは契約ができていて、今後、少しは進むかと思います。

【鉄矢会長】 空調設備とかは今後の4年ぐらいでは結構大きな。

【事務局】 そうですね。

【鉄矢会長】 やらなければいけないのを早目に声かけておかないと、声出しておかないと、安定して定期的にちゃんとやるという。

【事務局】 そうですね。はい。空調は常に綱渡りなので、厳しいかな。

【鉄矢会長】 1回とまっちゃったらもう大変でしょう。

【事務局】 そうなんです。結構毎年空調は。

【鉄矢会長】 もう既に綱渡りになっているという。

【事務局】 既に綱渡りになっていますね。

それと、やはり結露とかでカビが出てくるので、そこを直していかなければいけない。だから、修繕の問題はいろいろ出てきているのか。

【鉄矢会長】 外壁周りとかはやらなくていいんですか。

【事務局】 外壁というよりは、土地柄、地盤沈下しているんです。だから、ちょっとなぞの展示室になぞのひび割れが起きたりとかしているの。

【鈴木委員（館長）】 ちょうど展示室の中のひび割れが一直線に床に入っているの、それを延長していくと、外へ出ていったところのタイルが割れているのと一致するみたいな。

【事務局】 だから、1回地質調査をしなければいけないんですけれども、1回見積もりをとったところ、莫大にお金がかかるんです。

一応この建物はコンクリートで、建物自体の柱はかなり硬い地盤の上に建っているから大丈夫だろうというのは、その見積もりのときの業者さんはおっしゃったんですけれども、やはりこういう土地柄なので、地下の水脈が変わったりするといろいろあるんじゃないかというようなことは、やりたいと思いますけれども。

【鉄矢会長】 ほんとうに天井の防水とか屋上防水は。

【事務局】 屋上防水は一応大丈夫。でも。

【鉄矢会長】 でも、5年に一遍ぐらいですよ。

【事務局】　　そうです。

【鉄矢会長】　　窓のシール打ち直しとかもほんとうは必要なんです。

だから、そういうのを全体的にもうそろそろ更新の時期であるみたいなものは書き込んでおいたほうが、美術館が改修したよねとって、終わりですねじゃなくて、改修したからこそ、ちゃんとしたメンテナンスをし続けていかないと。

【事務局】　　その修繕計画みたいなものをきちんと出す必要があります。やはり私たち素人なので。

【鉄矢会長】　　長期修繕計画は建築家に出させるんです。そういうのはちゃんと。

【事務局】　　あとはあれですよ、展示室の壁問題ですよ。

【中村学芸員】　　展示室の壁が、おそらく中村研一記念美術館時代から一度も全く取りかえることのないままにずっと使い続けているという状態です。おそらく1990年に建てられて張られた状態の壁をずっと使っている状態かと想像しているんですが、かなり年数がたってきてくぎ跡ですとか、汚れも目立つようになってきていますし、部分的には壁紙がはがれたりしている。

可動壁に張られている壁紙なども部分的にちょっと接着が弱くなってきたりしている。そろそろ全体的に壁紙を張りかえるなり、少し塗りかえるなりといったような形で展示室の壁を修繕して、展示するにふさわしい環境を保つということが必要になってくるであろうということはここ数年、ふつふつと出てきている問題ではあるんだけど、ただ、そこに関してもなかなかまとまったお金、契約期間がとれないので実現できずにいるという状態なんです。

【山村委員】　　だから、壁はクロスじゃなくて。

【中村学芸員】　　クロスが張られている。

【鉄矢会長】　　ペンキ塗り。

【中村学芸員】　　いや、ペンキは塗っていないと。

【鉄矢会長】　　寒冷紗の上にペンキ塗りじゃなくて。

【中村学芸員】　　そのまま張られている状態だと思います。

【山村委員】　　では、クロスの張りかえが必要だということ。

【中村学芸員】　　そうですね。クロスを張りかえるか、あとは、そこはちょっと業者に聞かないとわからないんですけども、張りかえずに、例えば直す方法があるのかという。

【山村委員】 上から塗る方法があるでしょう。

【鉄矢会長】 石膏ボードではないんですね。ちゃんとした

【中村学芸員】 そうです。

【事務局】 天井は石膏ボード。

【鉄矢会長】 天井は石膏ボード。

【中村学芸員】 天井のピックアップレールが入っていないところはそうだと思います。

【鉄矢会長】 普通のちゃんと打てる、コンパネとかそのぐらいのものがちゃんと壁に入っている。

【山村委員】 クロスがしっかりしてれば、塗るだけだったらそんなにかからないし。

【事務局】 山村先生、普通の美術館はどのくらいで変えています？

【山村委員】 何年ぐらいだろう。10年ぐらいだろうね。張りかえは。塗りかえは二、三年で。

【事務局】 そうなんですか。

【山村委員】 いや、三、四年くらいですか。

【鉄矢会長】 塗りかえられるような壁にしておく、塗りかえが楽なんです。塗りかえられない壁にすると、塗りかえないで張りかえになるので。

【山村委員】 東京都美術館ではちょうど今、展示室の壁面を塗りかえているんだけど、2回目だったっけ。やはり四、五年に1回は塗ります。

【事務局】 そうなんだ。

【中村学芸員】 おそらくそのあたりを1回もやったことがないという状態で今まで来てしまったので。壁としてはかなり汚れも目立つし、どうにかしたいんだけど、ただどこから、どのくらいまずやればいいのかかわからないという状態です。

【薩摩学芸顧問】 当然どこかに設計図はあるんですよね。

【事務局】 あります。

【薩摩学芸顧問】 では、まず、ちょっとそれを見て、どういう壁になっているか。いわゆる美術館仕様になっていれば、ほんとうは防火用の石膏ボードがあって、木を当てるための合板があって、そして、クロスでエマルジョンペイント。そういうふうになっていれば、上からエマルジョンペイントを塗り直すだけでもきれいになるわけです。

【鉄矢会長】 ちょいちょい目立たないようにして塗っちゃえばいい。

【山村委員】 いずれにせよ、課題としてはお茶室のあたりが進展したので、やはりこ

の建物全体のこと、特に空調と展示室の壁、そして、あとは、やはりこの庭周り。このあたりが出てくることでしょうね。

ただし、庭のことというのはどこまでが美術館でどこからが緑地課なのかとか、いろいろな問題はあるでしょうけれども、少し考えないと、せっかく昔ながらのはけの景観が残っているところなので、大事にしたいですね。

【鉄矢会長】 庭周りのところで、高所作業車が入っちゃうと、都市景観がだめになってくる。高所作業車が限界で、そこで切っちゃうので、木の樹形がどんどん悪くなっていくという。

【事務局】 高所作業車が入れないそうです。

【鉄矢会長】 そのときに、今、アームリストという方々がいて、登ってチェーンソーで切る方なんです。

【事務局】 登って切るそうです。

【鉄矢会長】 それはフジウエキサンという方が、すごく強いらしいんです。結構樹形をきれいにしてくれる。

今度、うちの大学にもお勧めしようと思っているんです。

【山村委員】 管轄は環境政策課とコミュニティ文化課、どっちなんですか。

【鈴木委員（館長）】 美術の森緑地はコミュニティ文化課の所管内。なので、はけのあちこちにあるような緑地の管轄は環境政策課の中の緑と公園係になっていますけれども、ここの緑地だけはうちの所管になっています。

【山村委員】 茶室も含めた全体はコミュニティ文化課。

【事務局】 そうです。坂の途中とか、こうなっている地形丸ごとコミュニティ文化課の所管です。

【山村委員】 だから、おそらく手入れをしようと思うと、予算的には結構大変ですね。

【鈴木委員（館長）】 丸ごと一気にやると、一千何百万。

【事務局】 木だけ丸ごと一気に切ると、1,000万ぐらい。それで、300万ずつに分けて財政計画に出したら、それは安いからだめだと。

【山村委員】 へえ、1年でやれって？

【事務局】 1年でやれというか、1,000万以上じゃないと、これには載せられませんと言われたので、もう1回見積を取り直したら、やはり1,000万かかります。

【鉄矢会長】 そのほか。脳みそ使って課題をあぶり出しましょう。

【事務局】 お願いします。

【鉄矢会長】 では、これはご意見ありましたら、また学芸員のほうにとか事務局のほうにお寄せください。

4番目、意見交換等です。何か質問、ご意見等ありましたらお願いいたします。

【事務局】 すみません。続いて申しわけないんですが、美術館も含め、小金井市の芸術文化振興計画というのが10年計画であったんですが、平成21年3月から30年3月までだったんですが、総合計画との整合性をとるために、今、3年使用して、令和3年3月、今の計画が続いていまして、令和3年4月から第2次の新しい計画をつくらないといけないということで、この秋から計画の策定委員会というものを設置して、動き出そうとしているんです。

第1次の計画のときは、市民交流センターにしろ、美術館にしろ、美術館は立ち上がったばかり、市民交流センターはまだ建つのか建たないのかもわからないような状態だったために、市の文化施設が何も表立って計画の中に見えてこないという部分があるので、実は去年、30年の後半にこの芸術文化振興計画を評価検討する有識者会議というものを行いまして、その中で一定の回答をいただいたんですけども、やはりその文化施設については次の計画の中で明確に、美術館であるとか、市民交流センターなりとかはきちんと位置づけをはっきりさせて計画の中に盛り込んでいかなくてはいけないというご意見をいただきましたので、次の策定委員会の中にこの美術館の運営協議会と市民交流センターの運営協議会の中から委員を1名ずつ出していただきたいと思いますので、まだちょっと準備が整わなくて、今回、その方針をお示しできなかったもので、次回までの間に何人かお声がけさせていただくかと思っておりますので、その節はよろしくお願ひしたいと思っております。

以上です。

【鉄矢会長】 意見交換。

【山村委員】 桑野さんはご専門はどういうことなんですか。

【桑野学芸員】 もともとの専門は日本美術で、どちらかというと、草双紙とか浮世絵とかそのあたりのものが中心なんですけれども、ただ、7年間博物館でやっておりましたので、それだけではなくて。あとは着物とか工芸のほうも、先生について勉強して。博物館では甲冑とか刀剣とかもやりましたし、あと、徳島に関するものと大名家に関するものということで、ありとあらゆる資料があったものですから、比較的近代現代のほうまで扱うような形になったりもしました。



【山村委員】 では、どちらかというと、日本美術がご専門。

【桑野学芸員】 日本美術が専門です。ですから、正直、今回の展示というのは、そういった意味では専門の外にあったんですが、ただ、作品を拝見させていただいたりとか、あと、作家の先生と話をすることで、展示の趣旨とかそういったものは非常に振りかえできたので、そのあたりは薩摩先生とよくお話しさせていただきながら、展示構成はやりました。

比較的、自分で言うのも何ですけれども、心地いい空間ができたかと思っています。

【山村委員】 すごくおもしろかった。

【桑野学芸員】 ありがとうございます。

【薩摩学芸顧問】 たまたま向こう側の作家側の、作家というか、修復者というんでしょうか、その中心的な人が今年の3月まで藝大におられて、定年退職になったらワークショップもやっていただくような、木島先生という方で、私ども大変親しかったというか、そういう先生でもあったということもあって、人間関係的には問題なくできたかとは思っていますけれども。

ただ、こういうことですので、今回はギャラリートークは私が引き受けさせていただいたということになります。

【山村委員】 薩摩先生のトークは技法的なことですか、それとも美術的なことですか。

【薩摩学芸顧問】 技法ですね。技法、主として板の上にテンペラでどう描いていくかというあたりです。やはり知らない人はほんとうに知らないので、卵。

結局、絵というのは顔料と支持体と、その顔料を支持体にくっつける展色剤、溶剤、この3つで成立するわけで。やはり一番皆さんがわからないのはこの展色剤の部分で、なるべく身近にあるものを使うんです。水、油、それから、にかわ。そうすると、それをにかわと同じように物質でたんぱくとくれば、卵というのは大変身近にあって安いので。

ただ、技量、技法的には一旦衰えた技法ですので、あまり知られていないんですが、大変、ちょっとなれば使いやすい。それも黄身だけ使う場合もありますし、それから、白身だけ使う。黄身のほうが油分が多くてねっとりしますし。だから、少し透明に溶きたいときには白身だけ使えばいいし、両方混ぜても使えるし、そこにさらに油を加えても使えるし、大変いい材料なので、その辺の話。

そんなにいい材料なのに、何で衰えたかということ、単純な話で、腐りやすいからです。それで、また、今、復活しつつあるのは冷蔵庫があるから。冷蔵庫がない時代、テンペラ

絵の具なんていうのは、暑いところでは今日つくったものが明日の午後には腐っていますからね。それで衰えたんですけれども。

そんな話をしています。

【上原委員】 カビなんか生えないんですか。

【薩摩学芸顧問】 ちゃんと生えないように少し酢酸を入れるんですけれども、そうすると、乾くまでの間に生えなければ大丈夫です。酢酸でもいいし、お酢でもいいし、向こうだったらワインビネガーあたり。それを人によって好みの量は違いますけれども、それを混ぜる。

【山村委員】 一般的なテンペラ技法としては酢酸を入れる。

【薩摩学芸顧問】 少し入れますね。少なくとも最近は入れています。多分昔も入れていたと思います。

【山村委員】 東京芸術大学の学生時代に佐藤一郎先生っていうのがテンペラの講義でやったんです。卵テンペラやったことあります。あのときに何入れたかもう忘れちゃった。

【鉄矢会長】 学芸大のカワムラ先生がテンペラなんでしょう。

【中村学芸員】 私の時代はカワムラ先生いらっしやらなかったんです。

【鉄矢会長】 ああ、いなかった。

【薩摩学芸顧問】 ああ、カワムラ先生、佐藤一郎先生の先生の、名前が出てこない、そのお弟子さんになるから、カワムラ先生っているはずですよ。

【鉄矢会長】 では、次のその他につきましては、その他。

次回運営委員会日程調整から、よろしいですか。

【事務局】 その前に。会議録の件でお話しさせていただきます。

今、机の上にお配りしてある前回、4月24日の運協の会議録の初校ができましたので、もし校正する内容があれば、1カ月後の9月6日までにご連絡をお願いします。

以上です。

【鉄矢会長】 ありがとうございます。では、日程について。今度は。

【鈴木委員（館長）】 10月中旬、下旬ぐらいを現在想定しておりますが、別途、日程調整を個別にさせていただいてもよろしいでしょうか。

【鉄矢会長】 10月下旬。

【鈴木委員（館長）】 はい。

【鉄矢会長】 その心は。

【鈴木委員（館長）】 先ほど申しました芸術文化振興計画の会議が10月末。

【事務局】 か、もしくは11月。

【鈴木委員（館長）】 11月の頭ぐらいにございますので、その日程よりも前の日程で、その委員会で委員の選任を含めて行いたいと考えておりますので。10月23日はいかかでしょうか。

【鉄矢会長】 では、10月23日の18時半からということで。運営協議会を開催いたしますので、よろしく願いいたします。

その他、ほかに、こちらで用意しているのはそのくらいなんですけれども、その他ございましたら。

【桑野学芸員】 先ほど薩摩先生にご意見いただいていた展示のことなんですけれども、もちろん中村さんにも多大な、私はいろいろ教えていただいたので。ここで言わせていただきます。ちょっとさっき漏れちゃったので、申しわけありません。

【鉄矢会長】 はい、ありがとうございます。

【上原委員】 模写展見せていただいて、やはり固まってしまったというか、緊張したんですけれども、その後に喫茶棟に行ってコーヒーを飲ませていただきました。そうしたら、ちょうど暑い日で、蝉時雨で、何か別荘に来たというか、避暑に来たというか、すごくリラックスできて気持ちよかったです。やはり喫茶棟というのは大事だなというふうに思いました。

【鈴木委員（館長）】 ありがとうございます。

【鉄矢会長】 その他ございますでしょうか。

では、令和元年の第2回はけの森美術館運営協議会を終了します。お疲れさまでした。

暑い日が続きますので、どうぞ皆さん、体気をつけてください。

— 了 —